

西大和つうしん

2017年8月号
No.422



咲き始めのオオヤマレンゲが美しい
〈八経ヶ岳にて 2017年6月18日〉

花の中にはミセンヒメハナカミキリ

奈良県勤労者山岳連盟
西大和山の会

西大和つうしん

第422号(2017年8月号)

【目次】

8月度山行計画	1
9月度山行計画	2
8・9月度カレンダー	3
山行・行事等参加メモ	4
山行報告	
・例会山行 《7/2》 大峰山脈 八経ヶ岳(玉越)	5
・自主山行 《7/4-11》 北海道の山 羊蹄山・礼文島・利尻岳(島崎・中・橋本・杉森・上田)	5
・例会山行 《7/9》 台高の山 迷岳(飯盛山周回)(船江)	9
・自主山行 《7/13-16》 北アルプス 焼岳・乗鞍岳(藤井・勝尾・杉村)	10
・例会山行 《7/16》 比良の山 権現山・蓬莱山(亀高)	12
室内例会だより(6/28)	14

8月度山行計画

～涼を求めて京都の沢へ～

例会山行1 京都北山 《雲取山》 911m

【日程】8月6日(日) (L勝尾)

【集合】上牧役場前駐車場 6:30 出発

【コース】花背高原前～寺山峠～一の谷分岐～雲取峠～雲取山～二の谷出合～一の谷出合～一の谷分岐～寺山峠～花背高原前

※ 歩行時間：約4時間

8月度夏山自主山行

①8月 5～ 8日 L 島崎 編笠山～赤岳～麦草峠／八ヶ岳

②8月16～20日 L 亀高 槍ヶ岳～大キレット～北穂高岳／北アルプス

③8月19～22日 L 島崎 針ノ木岳～鳴沢岳／北アルプス

9 月 度 山 行 計 画

～遭難者捜索の訓練を通じて、事故を未然に防ぐ技術を学びましょう～

例会山行2 奈良県連救助隊主催・広域捜索訓練

実施フィールド：台高山 三峰山一帯

【日 程】9月3日(日) (L藤本)

【集 合】(西大和会員)上牧役場前駐車場 7:30 出発

(全体集合) みつえ青少年旅行村・第二駐車場 10:00

■道迷いによる遭難が発生したと仮定して、遭難者を発見するシミュレーションを行います。地図読みやルートファインディングの知識をいかに活用するかがポイント。与えられた条件をもとに、登山道の形態や周りの地形から、誤って迷い込みやすい場所を想定して捜索をします。この経験を活かせば、自ずと道迷いを防ぐ手法が身につくはず。

■参加者は8月27日(日)の室内例会にて募集します。皆様の積極的なご参加を期待しています。

～変化に富む岩峰と滝の修験の山へ～

例会山行1 兵庫の山 《雪彦山》 915m

【日 程】9月10日(日) (L船江)

【集 合】上牧役場前駐車場 6:00 出発

【コース】登山口～(1h10)～出雲岩～(40)～大天井岳～(55)～雪彦山～(25)～鉾立山～(1h10)～虹ヶ滝～(40)～登山口

※歩行時間：約5時間

※下山後、雪彦温泉で入浴予定

～ハケ岳の主峰・赤岳の展望を楽しみましょう。昨年のリベンジだ！～

例会山行2 (テント山行) ハケ岳《赤岳》 2,899m

【日 程】9月23日(土)～24日(日) (L亀高)

【集 合】9月23日 王寺駅南口 5:00 出発

【交 通】王寺駅⇒香芝IC⇒(名阪道・中央道)⇒諏訪南IC⇒美濃戸

【コース】

《24日》美濃戸口～(1h30)～美濃戸～(2h30)～行者小屋(テント場泊)

《25日》行者小屋～(地藏尾根1h30)～地藏の頭～(1h)～赤岳～(文三郎尾根1h30)～行者小屋(テント撤収)～(2h)～美濃戸～(1h)～美濃戸口

【歩行時間】24日：4時間、25日：7時間

※帰宅予定：王寺駅(22:00～23:00頃)

※帰路入浴と夕食を予定

9月度夏山自主山行

①9月 3～6日 L島崎 西穂高岳～ジャンダルム～奥穂高岳／北アルプス

西大和山の会 カレンダー

8月			9月		
1	火	県連・理事会	1	金	
2	水		2	土	
3	木		3	日	例会山行2《県連・広域搜索訓練》
4	金		4	月	
5	土		5	火	
6	日	例会山行1 雲取山(勝尾)	6	水	
7	月		7	木	県連のあり方検討会第2回
8	火		8	金	
9	水		9	土	県連・理事会
10	木		10	日	例会山行1 雪彦山(船江)
11	金		11	月	
12	土		12	火	
13	日		13	水	
14	月		14	木	
15	火		15	金	
16	水		16	土	
17	木		17	日	
18	金		18	月	
19	土	西大和つうしん原稿締切	19	火	
20	日		20	水	西大和つうしん原稿締切
21	月		21	木	
22	火		22	金	
23	水		23	土	例会山行2 テント山行 八ヶ岳《赤岳》(亀高)
24	木		24	日	
25	金		25	月	
26	土		26	火	
27	日	8月度・室内例会／暑気払い	27	水	9月度・室内例会
28	月		28	木	
29	火		29	金	
30	水		30	土	
31	木	県連初級登山学校・座学			

山行・行事等参加メモ

No	氏名 (入会順)	8/6	8/27				
		例会1 雲取山	暑気 払い				
1	(窪田)						
2	都築						
3	藤井	○	○				
4	(石田)						
5	田中悦		○				
6	島崎		○				
7	田中初		○				
8	村田						
9	林		○				
10	辻						
11	勝尾	LO	○				
12	藤本						
13	杉村	○	○				
14	高橋						
15	玉越						
16	阪口						
17	橋本		○				
18	今井		○				
19	亀高	◎	○				
20	船江	○	○				
21	野路		○				
22	中		○				
23	杉森		○				
24	上田		○				
25	永井	◎	○				
26	川田	○					
27	高岡		○				
	合計	7	17				
	緊急 連絡先						

L:リーダー、○:参加、◎:車

※編集校了時点で把握していた参加予定者です。予定変更の場合は、リーダー（山行）、会長または副会長（暑気払い）にご連絡をお願いします。

山行報告

例会山行1

大峰山脈 八経ヶ岳 1,915m

【日 程】7月2日(日) 晴れ

【参加者】L辻・AL亀高・ASL杉森・BL田中悦・BSL林・杉村・玉越・船江・野路・中・永井・川田(12名)

【コースタイム】行者還トンネル西口登山口(8:50)～奥駆道出合(9:55)～聖宝ノ宿跡(10:55)～弥山小屋(12:05/12:45)～八経ヶ岳(13:20)～弥山小屋(14:00)～聖宝ノ宿跡(15:00)～奥駆道出合(15:50)～登山口(17:00)

行者還トンネル西口登山口から奥駆道を通して八経ヶ岳を目指すルート。太平洋高気圧が梅雨前線を押し上げ、当日は真夏日になる予報。普段より飲み水を多めに用意して挑んだ。

登山口に着くと既に全国各地からやってきた車が停まっていた。奥駆出合までは急坂となる。前日までの雨で岩や木の根が濡れており、粘土質の土も滑りやすい。奥駆道の主稜線を西に向かう。尾根道はシロヤシオの群落で、6月上旬には花回廊となる。ブナと苔の、まるで絵画のような原始林のなかを緩やかにアップダウンし、弁天ノ森を越える。下界の予報より気温は低く、時折涼しい風が吹き抜けるのでとても清々しい登山日和だ。聖宝ノ宿(しょうほうのしゆく)跡からは聖宝八丁と呼ばれる急登が始まる。世界遺産登録に伴い整備された木段は、濡れていて滑りやすい。発電機の音が聞こえはじめるとすぐ弥山小屋に着く。小屋前のベンチは多くの登山客でいっぱいなので、広々とした国見八方睨で昼食休憩をとる。



一度古今(ふるい)宿の鞍部に下り、八経ヶ岳へ登る。オオヤマレンゲはまだ咲き始めの状態。しかし、白くふっくらとしたつぼみや、うつむき加減に開いた花を数輪見ることができ大満足だ。花を見ながらの登りは心が軽く、あっという間に八経ヶ岳山頂に着く。少しガスっているが展望は素晴らしい。

往路を下山する。登りで注意が必要だった場所は、下山時はそれ以上に危険度が増すため、緊張感を保ちながら慌てず下る。紅葉の時期にもぜひ訪れたいが、今回のような距離が長い山行は日の長さを考慮した計画を立てなければならない。
(記：玉越啓子)

夏山自主山行

北海道山旅 羊蹄山・礼文島・利尻岳・雨竜沼湿原

【日 程】7月4日(月)～11日(日)

【参加者】CL島崎・橋本・中・杉森・上田(計5名)

7月5日(水)曇り後晴れ 羊蹄山 1,898m

【パーティー】L 島崎・SL 杉森・橋本・中・上田 (5名)

【コースタイム】ホテルようてい(4:00)～半月湖野営場駐車場(4:20/45)～5合目(6:45)～7合目(7:50)～北山(9:25)～羊蹄山(10:00)～昼食(11:00/30)～9合目(12:10)～5合目(13:20)～半月湖野営場駐車場(15:20) 歩数：36,420

野営場出発時点はガス状態、樹林帯を歩き、4合目過ぎから、少しずつ青空が見えだし、元気がでてきた。登るにつれ、青空、眼下は雲海だ。9合目からは、シラネアオイが咲いていた。5月に佐渡で見たが、予想もしなかっただけに、驚いた。コメバツガザクラ・キバナシャクナゲ・オダマキ・ウコンウツキ・ナナカマド、予想外のお花畑に感激！！

稜線に出ると、お鉢巡り全体が見渡せる。眼下には雲海が広がっており、気持ちよく稜線歩き。北山のピークを過ぎ、岩稜帯をアツクダウンしながら、羊蹄山山頂に到着、ちらほらと逆コースから登ってくる人と出会うが意外と少ない。眼下に避難小屋が見えるピークにてしばしの昼食タイム。青空の下、のんびりとした

気分で食事をする。御鉢巡りの稜線歩き。くだりはいいが、やはり登りはしんどいな！！



景色を楽しみながら歩き、稜線上の合流地点に到着。ここからは下りになってくる。登っていたときは、ガスって下が見えなかったが、視界が広がってきた、ニセコ連峰や倶知安町が眼下に見渡せるようになってきた。

7合目あたりより右膝に違和感があり、おまけに顔の左側全体が腫れて、視野のバランスが悪く、2回滑ってしまった。それでも予定より早く下山する事ができた。顔の腫れがひどくなってきているので、ストレッチも省いて、とにかく病院へ直行。16時になんとか滑り込み、総合診療科でみて頂き、薬を頂くことができた。

杉森さんに運転と、皆さんにも付き添って頂き、大変ご迷惑をおかけいたしました。今回の急な出来事にも、チームとして活動して頂き、大変感謝・感謝でした！！ (記：島崎隆)

7月7日(金)曇りのち晴れ 礼文島 岬めぐりコース トレッキング

【パーティー】L 中・SL 橋本・島崎・杉森・上田 (5名)

【コースタイム】バスターミナル(9:25)～スコトン岬(10:30)～トド島展望台(11:15)～ゴロタ山 179m(13:45)～鉄府付近トイレ(13:15)～澄海岬(14:05)～浜中バス停(15:10) 歩数：23,885

ペンションの車で送ってもらいバスターミナルに着く。バスに乗り込むが窓の外は風が強く、霧で景色が見えない中を終点のスコトン岬に着く。バスの運転手さんが、風速7メートルぐらいと言っていたが、かなりの風圧に驚かされる。スコトン岬でも霧が深くて眺望はほとんどなく、トド島展望台にむかう。舗装された道に行く、強い向かい風が吹き歩きにくい。時々先頭を男性に代わってもらい、風よけ





になってもらう。道端にはシシウドの白い花とエゾカンゾウの黄色の花畑が広がる。歩きながらよく見ると白に少し赤身のあるチシマワレモコウを見つけることができた。舗装道が切れると靴一足の幅の土道を上りトド島展望台に着くが展望はない。

ゴロタ山へは割に急な登りを横風に身体を推されそうになりながら上る。所々にレブンソウ、レブンキンバイソウなどなど小さな花を見つけることができた。ゴロタ山からは晴れていると利尻岳やサハリンのモネロン島が見えるはずであるが景色は見えない。鉄府へ向かう途中から風が乾き始め、しばらくして霧がはれ青

空も見えてきた。海岸線に行く途中で海風に吹かれながら漁師小屋の陰で昼食をする。何羽ものウミネコが、海岸に打ち上げられたアザラシ？トド？の死骸をつついて北の自然の大きさを感じた。

海岸線から丘へ上るとこれから行く澄海岬が見えてきた。丘を下り舗装道を澄海岬へと上り、ここでやっと空の青と海の青、岬の緑の眺めをたのしむことができた。帰りのバスの窓から雲の中から海の向こうに薄く浮かび上がった利尻岳が見ることができた。(記:中昌子)

7月8日(土)曇り 礼文島 桃岩展望台コース・元地海岸

【パーティー】L 橋本・SL 中・島崎・杉森・上田 (5名)

【コースタイム】ペンション「うーにー」(9:00)～北のカナリヤパーク(9:15/50)～知床登山口(10:15)～元地灯台(10:35)～桃岩展望台(11:43/12:15)～元地新トンネルを通り地蔵岩(13:20)～フェリーターミナル(13:15/16:25)～利尻島鷺泊(17:10) 歩数：18,290

宿の窓からは明るく周りの景色が眺めることができ、今日は晴れる?! お花畑の桃岩展望台コースを歩くには最適な日になるかと思いきや、宿を出発する頃には、また霧が立ち込める。「晴れる事が最近ほとんどない」とのこと。海に囲まれた島ならではの気象なのか、まあ気を取り直し、北のカナリヤパークから知床登山口へと向かい、桃岩展望台コースへと進む。お花畑は色々な花が咲いており、満足できるコースだった。レブン



ソウ、レブンユキモリソウ、レブンキンバイソウ、チシマフウロ、ヒオウギアヤメ etc. しかしながら、宿を出てからは一瞬たりとも霧は晴れることはなく、少し心がめげてきそうになる。元地海岸の奇岩「地蔵岩」を見学に行こうと20分程桃岩新トンネル内を歩くが、車が近づく音が不気味で少し怖かった。帰りは運よくフェリーターミナルまでのシャトルバスに乗ることができたのでやれやれ。礼文島の行程は終了。

利尻島へとフェリーで移動する際船上でやっと雄大な利尻山を見る事ができた。低い海拔からの



登山。大変だと思うがしっかり歩こう！ でも引き続きお天気は下り坂の予報。「お願いだから雨は降らないで・・・」と祈るばかりだった。
(記：橋本紀子)

7月9日(日) 晴れ後曇り 利尻島 利尻岳 1,719m

【パーティー】L 杉森・SL 橋本・島崎・中・上田 (5名)

【コースタイム】田中家ひなげし館(4:00)～登山口(4:15)～分岐点(4:30)～六合目(6:10)～八合目(7:35)～九合目(8:30)～杓形分岐(9:05)～利尻岳(9:30/10:15)～八合目(11:40)～六合目(12:55)～登山口(14:45)

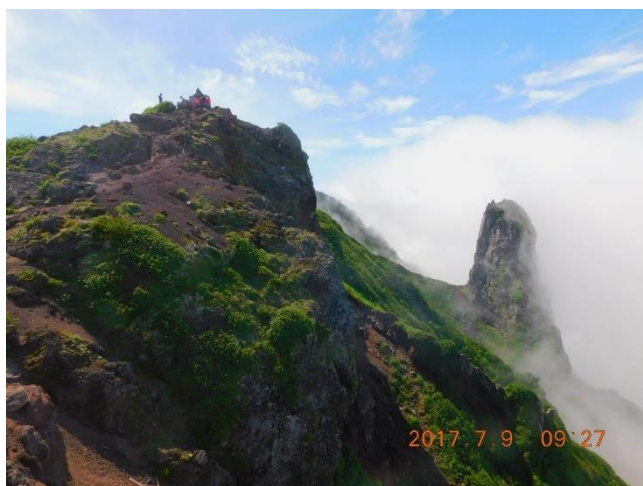
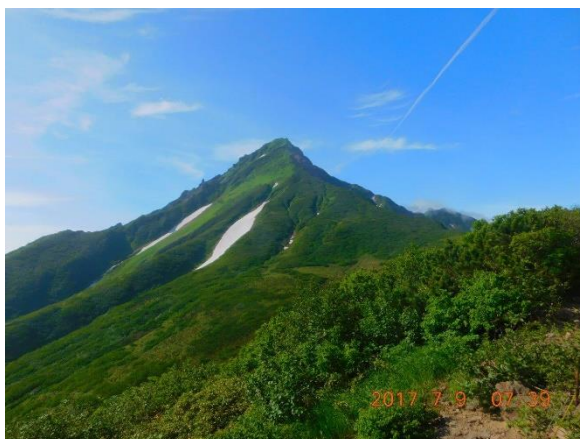
歩数：32,174

利尻北麓野営場の登山口より出発、まもなく、日本名水百選に選ばれた甘露泉に着く。冷たくて軟らかい水を飲み、スッキリする。エゾマツ、トドマツの林を過ぎると、尾根に上り展望が開けた。山裾は羊蹄山に負けないくらい広い。しかし、風が強く日本最北の山の厳しさを感じる。

五合目着、後方に海が見え出し、これから本格的な登りになる。青空と、前方に聳える長官山(八合目)の緑のコントラストが実に美しい。六合目を過ぎると、自然保護のため携帯トイレブースが立っていた。コース全体で3ヶ所設けられている。八合目手前の第2見晴台着。眼下に山裾が広がり、鷺泊港が望まれる。遠くにフェリーが行き交っている。高度感満点！ 九合目付近からお花畑の群生が現れる。徐々に足場も悪くなり、風も強いのでゆっくり眺める余裕はない。頂上直下、霧が晴れた瞬間、蝸燭岩が見えた。山頂と異様な形の蝸燭岩の並んだ姿は神々しく、正に絶景である。

ついに山頂到着、これまでの疲れが吹き飛ぶ。20人位の人で賑わっていた。ガスがかかり360度の展望は望めなかったが、鷺泊港方面は少し見えた。島の人によると、中心に利尻岳があるため風の向きが絶えず変化している。その結果、山の周囲の天気は目まぐるしく変わるとのこと。今回、鷺泊コースを選び、ずっと景色を眺めながら登ることができたのは本当に幸運であった。山頂の神社にお参りし、眼下に広がるお花畑を眺めながら昼食・休憩をとる。休憩も含めて10時間30分、標高差1500m以上のコースであったが、好天に恵まれ充分満足できた山行でした。

(記：杉森英二)



7月11日(火) 曇り 雨竜沼湿原

【パーティー】L 上田・SL 島崎・橋本・中 (4名)

【コースタイム】南暑寒荘(4:35)～湿原入口(6:05)～雨竜沼湿原展望台(7:10)～湿原入口(8:25)～南暑寒荘(9:50)

雨竜沼湿原は標高850mの溶岩台地にあり、数十万年前の古い火山跡にできた東西約4km、南北2kmの湿原帯で、「北海道の尾瀬」と呼ばれている。標高500mにある南暑寒荘あたりはヒグマ注意の看板や登山の際のヒグマ対策情報が多い、また、6月7月は蚊、アブ、ブヨ等虫も多い所なので、防虫スプレーをし、防虫ネットをかぶり、鈴を付け、賑やかに声を出しながら少々緊張しながら出発。この日の天気は曇り。蒸し暑い。湿原入口には靴底洗い場があり、ブラシも置いてある。





靴底の土、西洋タンポポなどの帰化植物が入るのを防ぐためにきれいに落して湿原へ。残念な事に霧のため湿原の全景はわからない。湿原は木道歩きとなり、徐々にエゾカンゾウ、ワタスゲ、水芭蕉の葉、ヒオウギアヤメ、シナノキンバイ、固有種と思われるウリュウコホネ等々が咲いている。時折風が吹き、湿原に黄色、紫、白、緑、池塘と続く木道。まるで1つの風景面を見ている様で、ふと立ち止まり、霧の流れと幻想的な景色を楽しんだ。

2時間ほどの散策を終え、登山道を下る事1時間30分。熊にも会わず、虫もそんなにいなくて雨にも合わず、南暑寒荘到着。駐車場にはこれから湿原に向かうと思われる大勢の若者たちも来ていた。南暑寒荘は設備が良く、冷蔵庫あり、シャワー有り、電気もついていて、台所備品もあり、食材と寝袋さえあれば快適な施設。ただ道中の車道がジャリ道で1時間強。その分到着した時は走った感がありましたが。

8日間の北海道山旅はこれで終わり、振り返ればよく歩いたわ～。でも楽しかった～。お疲れ様でした。

(記：上田雅子)

例会山行2 台高山脈 迷岳（飯盛山周回）／夏山訓練山行

【日 程】7月9日（日） 曇り

【参加者】L 藤井・SL 野路・林・杉村・亀高・船江（計6名）

【J-タイム】登山口(8:15)～本尾根分岐(9:34)～飯盛山北峰 P809(10:18)～飯盛山 P930(11:23)～唐谷分岐(12:10/45 昼食)～林道終点(14:00)～登山口(14:55)

訓練山行なので、さすがに険しく厳しい山だった。午後から崩れる予報の天候を気にしながら登山口に到着。湿度が高く空気がもう蒸し暑い。ジッとしていても、じわあっと汗がにじむ。登り始めからの急登で更に汗が吹き出す。ヒルの多い山系と時期ということで、ヒル用スプレーを振りかけていたが足元にヒルを見つけ閉口。前の人の足元にヒルがついてないか声をかけあい、互いにチェックしながら登る。

分岐までは急登の連続で、木の根を掴みながらの急



登もあ

ったが登りやすい道。尾根でようやく涼しい風でホッと一息。本尾根分岐からは、痩せ尾根を通過したり、ロープのある湿った岩場を攀じ登る箇所が出てきて面白い。北峰にはしっかりした標示があったが、飯盛山本峰のピークになかなか辿りつかず、おかしいな？ と GPS を確かめると知らぬ間に通り過ぎていた。残念！ピークを見つけられなかった。アップダウンを繰り返していたうちのどこかだったらしい。



ようやく唐谷分岐に着く。気温と湿度のせい大量の汗をかき、立ち休憩も多かったので、コースタイムをオーバー。ガスも発生し午後からの雨予報を警戒して、迷岳山頂へは行かず周回コースに変更。下りも急坂で濡れた木の根や岩が滑りやすく、崩壊している箇所や荒れた道もあり慎重に下る。下るにつれ気温が高くなり、湿気も増しヒルが登場！渡渉が何度かあったが、苔のついた岩には緊張した。美しい滝が見えてくるが立ち止まるとヒルが登ってきそうで足早に下る。やっと林道終点に到着し、みんなで靴を脱ぎヒルチェック。なんとNさんの靴の中にヒル5匹！大騒ぎで退治し、あとは林道を登山口までゆる〜く下っていくが、地味に長い。

帰りに立ち寄ったスメールのお風呂で、体に吸い付いたヒルを見つけ、また一騒動！温泉で汗を洗い流し、気持ちよく帰路についた。訓練には最適のバラエティ豊かな山だったが、ヒルのいない時期に迷岳山頂へリベンジしたいと思った。

(記：船江照代)

夏山自主山行 北アルプス 焼岳 2,455m・乗鞍岳 3,026m

【日程】7月13日(木)夜~16日(日)

【参加者】L 藤井・SL 勝尾・杉村・船江(4名)

7月14日(金) 晴れ時々曇り一時雨 焼岳 2,455m

【コース】上高地(6:55)~焼岳登山口(7:45)~焼岳小屋(10:40/11:00)~焼岳北峰(13:10/13:25)~尾根下降地点(13:30/14:10)~中の湯焼岳登山口(16:50)~中の湯温泉(17:20)

連休前とあって人もまばらな早朝の上高地。梓川の沢音を聞きながら、奥穂や前穂を見上げながら歩きはじめる。足元には可憐なカラマツソウやイチヤクソウ。田代橋を過ぎ、焼岳登山口から本格的な樹林の中の登りになる。

ひと汗かいて、振り返るとエメラルドグリーンの大



正池や上高地のホテル群が見えてきて高度が上がってきたことを実感する。ところどころ崩れ落ちた箇所があって噴火の影響を感じさせられる。やがて梯子がいくつも出てきて、上りきるとひっそりと建つ焼岳小屋に着いた。

中尾峠まで登ると景色は一変して活火山らしい荒涼とした岩峰が現れる。あちこちで噴煙が上がっていて硫黄臭がする。岩稜帯を登りきってやっと焼岳の北峰に着くと、私たちの到着を待っていたかのようにガスがとれ、穂高連峰や笠ヶ岳が姿を現した。辛い登りを頑張っ、アルプスに来たことを実感する。最高峰の南峰には崩落がすすんでいて行けないが、噴火口からは今も噴煙が上がっていた。展望を楽しんだ後、少し下った尾根からの下降地点で遅い昼食にする。中の湯への下山路は急斜面の草原になっていてコイワカガミのピンクの花が一面に咲いていた。これから先、もっといろいろな種類の花が咲き乱れていることだろう。

樹林帯に入ると長い変化のない下りが延々と続く。今回は新中の湯ルートを下ったが以前に登ったことのある中の湯ルートの方岐は確認できなかった。焼岳登山口からさらに30分歩いてやっと一軒宿の中の湯温泉に到着。登りで足が攣ったりして、予想外に時間がかかってしまった。体力の衰えを痛感した山行になった。(藤井益子)

7月15日(日) (曇り時々晴れ) 乗鞍岳

【コースタイム】 畳平(10:00)～肩の小屋(11:10)～剣が峰(12:30)～肩の小屋 (13:50/14:35 昼食)～畳平(15:38)

中の湯温泉のバス停から平湯温泉行きのバスに乗り、平湯温泉にて畳平行きのバスに乗り換える。連休中にも拘らず乗客は少なく、ゆったりと座っていたが、朴の木平の駐車場からは、マイカーで来ている人々が沢山乗って来られ満席になった。高度を上げて走るバスの窓から、穂高連峰、その後ろに笠ヶ岳、黒部五郎の峰々が見えた。何度見ても見飽きる事のない山々だ。

畳平は標高2,700mあり、330mの標高差を登るだけで、乗鞍岳の山頂の剣が峰に到達できる。お花畑もバスを降りて少し歩くだけで、一面に咲くハクサンイチゲ、キバナシャクナゲ、コ



イワカガミ、そして砂礫地にはコマクサも咲いている。ハイマツの緑と雪渓のコントラストも夏山の魅力のひとつ。雪に覆われた火口湖の澄んだ水面の色にも惹きつけ



コマクサ

られる。そしてここにはもうひとつの魅力、雪渓で夏スキーが出来るのだ。肩の小屋口から肩の小屋までの大雪渓で、沢山のスキーヤーがスキーを楽しんでいた。ただ、リフトが無いので自分でスキー板を担いで登るといふ苦勞が伴う体力あつての夏スキーだ。

肩の小屋まで平坦な舗装路を来たが、ここから登山路になる。蟻の行列の様に、絶え間なく登山者が列を成して登っているのが見える。小さな子供連れの若い御夫婦、ツアーの団体さん、若者達の元気なグループ、我々と同年輩(T.F.さんは別ですが)と思われるグループなど、これから登る人と下山する人、色々な人で登山路はごった返していた。標高差330mと雖も、やはり3000m級の山。楽ではなかった。ゆっくり自分のペースで登り頂上へ。頂上も混雑していたので、お堂に手を合わせ、写真を撮って下山する。直ぐ下の頂上小屋で、買い物など、なんだかんだと楽しい時間を過ごし、肩の小屋まで下りて昼食を摂る。私は今回も少し吐き気を感じていたので食欲が無く、肩の小屋の食堂のかけうどんの汁をすすった。バスの時間まで少し余裕があり、3人はお花畑の散策に行かれたが、私はバス停の前で休憩する事にした。お花畑には沢山の黒ユリが咲いていたとの報告に残念!! 残念!!!



クロユリ

(記: 勝尾栄美子)

7月16日(日) (曇り) 平湯大滝・大ネズコ(ヒノキ科) 里山ハイキング

【コースタイム】 宿(7:48)～平湯キャンプ場大ネズコ入口(8:18)～大ネズコ巨木(8:43/55)～平湯大滝(9:34/45)～宿(10:24)

推定樹齢 1000 年以上の大ネズコ巨木を見学ハイキング。ひんやりと気持ち良かった山道では多くの種類の草花が観察できた。サンカヨウの実がブルーベリーに似て美味しく思って食するが、無味だった。大ネズコ下り分岐から 1,050m 歩くと水しぶきのあがっている落差 64m の日本滝百選、平湯大滝につく。澄みきった水の流れや木々の自然が心地よかった。

総括：北アルプスの絶景を見ることが出来、女性 4 人のひばりの山行も楽しい……。

思いの外疲れる焼岳。乗鞍は多くの雪渓があり、豊平のお花畑には黒百合が多くて感激。乗鞍岳は海外からの登山者も見られ、国際色豊かな山となっていた。日本百名山二座踏破！ 平湯での里山ハイキングもあり、趣向を凝らした計画に感謝、感謝。

(記：杉村好子)



例会山行 2 比良の山 権現山 996m・蓬萊山 1,174m

【日 程】7月16日(日) 曇り

【参加者】L 野路・SL 杉森・林・亀高・中・高岡(6名)

【J-タイム】平バス停(9:30)～登山口(9:45)～折立山(10:25)～権現山(11:17)～ホッケ山(11:50)～小女郎ヶ池(12:22/45 昼食)～蓬萊山(13:20)～打見山(13:50)⇒(ロープウェイ)⇒山麓駅(14:12)～志賀駅(15:00)



日本各地で局地的豪雨や突風が報道されている不安定な梅雨空の下、直前に L・SL が交代するという事態はあったが、新人を含む参加者 6 名は、平バス停に降り立った。登り始めは蒸し暑い人工林の急登、アラキ峠から折立山(819m)を往復し、稜線を権現山(996m)へと歩を進める。いつしか稜線は人工林から自然林、さらには爽やかな高原の草原へと変わる。

稜線ではおびただしい数のアキアカネが乱舞していた。5～6 月に麓でヤゴ

から羽化し、暑くなると涼しい高原へと登ってきて羽虫を捕食して栄養をつけ、夏が過ぎると麓に降りてきて産卵する赤トンボの代表種だ。体色は秋の深まりとともに赤味を増してくるが、今はオレンジ色だ。

ホッケ山(1050m)を過ぎると蓬萊山が見えてきた。正午を過ぎるころ小女郎峠に達し、小女郎ヶ池の湖畔で昼食を取る。小女郎ヶ池は悲哀伝説が語りつがれている美しい池で、湖面に張り出した木の枝にはモリアオガエルの卵塊がチラホラ見られた。京都の金毘羅山で見て以来の光景だ。



雲の色が暗くなってきたので早々に蓬萊山に向け出発し、程なく蓬萊山(1,174m)に到着した。蓬萊山では鐘のオブジェの前で記念撮影。山頂付近はロープウェイとリフトを乗り継いで来たサンダル履きのカップルや子供連れで賑わっていた。多くの観光客を乗せて行き交うリフトの直下を登山靴と汗まみれの登山ウェアでロープウェイ山頂駅のある打見山(1,198m)へと向かう。山頂駅では午後2時前というのに既に下山のロープウェイを待つ人の列が出来ており、



観光客の乗るリフトの下を通過して打見山へ

我々もその列に並ぶ。ゴンドラは上下とも満員の乗客を乗せ 10 分間隔で運転しており、満員の乗客が下りてくると同時に乗り込む。ロープウェイ下りのゴンドラは満員電車状態で、天井からぶら下がっている吊革につかまる。汗まみれなので周囲に気を使っているうちに 5、6 分で麓駅に到着した。ここからは歩いて JR 志賀駅に向かう。ロープウェイ乗り場から棚田のように続いているいくつもの駐車場は殆ど満車であった。駅までの道のりは地味に遠かった。

なお、本日が例会山行初参加の新人Tさんは、登りも下りもしっかりとした足取りであった。普段から自宅の浦山の二上山に日課として登っていると伺い納得。普段からの近場登山が、登山トレーニングとして最も有効という鹿屋体育大学の山本先生の講演を思い出した。

不安定で蒸し暑い梅雨空の中での山行で、残念ながら尾根筋からの琵琶湖の展望は望めなかったが、雨には合わず、予定より1時間も早い午後3時に志賀駅に到着した。駅到着後の冷えたビールがうまかった。

(記：亀高茂)

室内例会だより

【日 時】2017年6月28日(水) 19:30~20:30 事務所

【出席者】藤井、田中悦、島崎、田中初、林、勝尾、藤本、杉村、橋本、今井、亀高、船江、野路、中、杉森、上田、永井、高岡

1. 山行計画

- 7月2日(日) 例会山行1 大峰の山《八経ヶ岳 1,915m》……………L 辻
- 7月9日(日) 例会山行2(訓練山行)台高の山《迷岳 1,309m》……………L 藤井
- 7月16日(日) 例会山行2 比良山系《権現山~蓬莱山~打見山》……………L 橋本
- 8月6日(日) 例会山行1 京都北山《雲取山》911m……………L 勝尾

2. 山行報告

- 5月27~28日 自主山行 大峰奥駈 PartVI[最終回](21世紀の森~古屋宿~如意宝珠岳
~玉置山~大森山~五大尊岳~大黒岳~吹越山~本宮大社)L 藤本……………7名
- 6月4日 例会山行1 県連主催第49回クリーンハイク 宇陀の山《額井岳 812.3m
~戒場山 737.4m》本会14名(一般3名)L 田中悦……………総計17名
- 6月10日 奈良県連初級登山学校 第4回実技山行(天候判断)《矢田丘陵》
講師3: 藤本(本会)・中武・杉川(奈良労山)、受講生: 本会4・他会5……………総計12名
- 6月11日 自主山行 鈴鹿山系《鎌ヶ岳 1161m》L 亀高……………4名
- 6月12~14日 自主山行 北アルプス《西穂高岳 2908.6m》L 島崎……………3名
- 6月18日 例会山行2 (夏山訓練山行)鈴鹿山系《国見岳》L 島崎……………9名

3. 講演会報告

- 6月17日 奈良県勤労者山岳連盟創立40周年記念講演会
「登りたい山と登れる山」山本正嘉氏(鹿屋体育大学教授)……………参加: 講演会11名、懇親会5名

4. 連絡その他

★県連関係

- ・女性委員会主催「テーピング講習会」

【日時】7月8日(土)15:00~16:30 【場所】陽養鍼灸整骨院

出席予定…今井さん、高岡さん。参加希望は今井さんまで連絡してください。

- ・藤本代表理事より

「こぶしの会」が、理事(会計)を選出することが困難なため県連を脱退することとなる。こぶしの会、オオヤマレンゲ、本会の3会で会計を持ちまわりで担当することを取り決めていたが、今後2会での担当となる。

★本会より

- ・8月19日(土)の 例会山行2は、自主山行もあり参加者がいないため中止。

- ・7・8月の室内例会と暑気払いについて

8月27日(日)14:00~: 7・8月合同室内例会/16:00~: 暑気払い。幹事: 勝尾さん【予定場所】「や台ずし」【費用】未定

- ・「西大和つうしん」7月号はメールで配信予定。各自印刷して7・8月室内例会に持参のこと。7月16日の例会山行2までを7月号に掲載するため、山行記録担当の方は7月22日(土)位までに会報部長に原稿提出してください。

(記: 橋本紀子)

西大和つうしん

第 422 号 (2017 年 8 月号)

2017 年 7 月 26 日発行

発行責任者 島崎 隆

編集責任者 亀高 茂

奈良県勤労者山岳連盟 西大和山の会

〒636-0003 奈良県北葛城郡王寺町久度 1-9-32

窪田友男方

TEL・FAX 0745-72-2876

[http : //www.nishiyamatoyama.com/](http://www.nishiyamatoyama.com/)